

県政が
ラス張り宣言生活者の視点で目に見える
ひらかれた政治のために地道に!!
颯爽と!!

『義を見て為ざるは勇無きなり』

(人として当然行すべき正義を知りながら
実行しないのは勇気がないからということ。)(論語より)

近年は、記録的短時間大雨、土砂災害、集中豪雨の際の線状降水帯等、これまで経験したことのない自然災害が頻発しています。

長期化した新型コロナウイルス感染拡大と共に想定外の出来事から脱却する手段として

- (1)状況を正確に理解する (2)最善の選択をする (3)解決策を提示し考える
-
- (4)計画通り行動する (5)原因含めて再発防止策を練る

と(1)から(5)へ自治体が適時適切な対応をしているか私たち議員は共に考えなければなりません。

『未知の脅威』に対抗する対策をいかに自治体が講じているのか。

私たち議員の監視能力が試されている昨今です。 令和4年長月吉日

くノり まなぶ
滋賀県議会議員 九里 学

- 【役職】
-
- ・土木交通・警察・企業常任委員会 ・公共交通・国スポ・障スポ大会対策特別委員会
-
- ・滋賀県ラグビーフットボール協会副会長 ・滋賀県スポーツ振興議員連盟副代表
-
- ・栗東柔道スポーツ少年団育成会名誉会長 ・栗東市卓球協会会長 ・栗東都市整備株式会社相談役
-
- ・栗東音楽振興会(RISS)顧問 ・栗東消費生活研究会会員 他

8月4日 登壇 県立学校のすべての子ども達のために教育環境改善について知事・教育長に質問

『三雲養護学校石部分教室について』

Q 現状の課題を県教委としてどう把握し入学希望生徒増に対策を講じていくのか。

A 石部分教室につきまして入学希望者が増加しており、施設の使用調整等、適切な運営が必要であると認識をしております。石部高校につきましては余裕教室を活用、習熟度別の授業を取り行っています。分教室で学ぶ子どもに対して教育環境を整備することが大切であると教育委員会としても考えており、石部高校と石部分教室の間で施設の使用調整を図っていきます。

Q 養護学校の実態把握を検証チェックし「チルドレンファースト」を基本に平場で議論しあい、劣悪な養護学校の施設箇所を改善するため順次予算化すべきだと思うがどうか。

A 今後、全ての特別支援学校の施設や設備について課題がないのか改めて実態把握し、緊急性や必要性を考えながら施設改修等の対応について早急に取り組んでまいります。石部分教室の課題につきましても実態を確認し、議員の指摘をふまえてどのような対応が可能なか学校とよく協議し速やかに取り組んでまいります。

Q 就職率向上対策等実態に即した柔軟な組織のあり方を現場第一の改善策含めてすべきではないのか。

A 県教育委員会では特別支援学校高等部生徒の就職率・就職実現率を目標に掲げまして、生徒の職業的自立と社会参加をめざした職業教育の充実事業と併せ、就労アドバイザーの設置『しがごと応援団』の企業登録等就職先の開拓に取り組んできました。県内企業の皆様に障害のある子どもたちの就職について更に理解と協力を得ていきたいと考えています。更なる横の連携の強化が重要であり、今後は協力できる仕組みを構築いたしますとともに教育委員会事務局におきましても校種を越えて併設する各学校現場の状況把握に努め、事務局全体として柔軟か

つスピード感をもって協力・連携し迅速な対応に努めてまいります。

Q 教育長の決意を伺う。

A 九里議員が取り上げられました『この子らを世の光に』という言葉を残された糸賀一雄先生の思いを滋賀の教育に携わる者全てがしっかりと受け継ぐことが大切であると考えております。課題は現場にございます。現場の声をしっかりと聞き、踏まえて様々な施策を考えていくことが大切であると改めて今回認識させていただきました。子ども一人ひとりの個性や魅力を高め笑顔あふれる学校づくりへの取り組みをしていくことが学びの充実を図る上で非常に大切なものの一つであると認識をし、県内すべての県立学校の状況を丁寧に把握した上でよりよく学べる教育環境のため必要な予算の確保につきまして教育長として全力で取り組んでまいり所存でございます。

Q 教育委員会や関係機関と連携し環境整備を含めた対処解決に向けてどう本県リーダーとして動かれていくのか、知事の決意を伺う。

A 教育は全ての学校で子ども一人ひとりの個性と魅力を高め、笑顔あふれる学校づくりに取り組み、子どもをすべての施策の中心に据え、子ども施策の充実を図ってまいりたいと存じます。学校では子どもたちが学ぶことの楽しさや人と共感したり、議論を交わしたりする充実感を十分に味わうことのできる場が大切であると考えます。特別支援学校の教育環境の改善には、障害のある子どもと障害のない子どもが「滋賀で共に学んでよかった」と思える環境づくりに取り組むことが大切であると考えており、すべての特別支援学校および高等学校において、よりよく学べる教育環境のため必要な予算についてしっかりと考えて、必要な措置を早急に行なって参りたいと存じます。

※ Q は九里質問 A は三日月知事・福永教育長答弁 (いずれも一部抜粋)

九里学
くノり学
まなぶ
令和4年
7月～9月
レポート『第57回県消防操法訓練大会』で
栗東市消防団の皆様を激励訪問す
る(7/31・東近江市)栗東市美術協会展示へ
(さくら)近江高校応援
(阪神甲子園球場)ラグビー協会副会長として
(国営山崎公園)県内養護学校の施設整備充実のために
尽力する(7/27・湖南市三雲養護学校石部分教室)子どもの虐待・貧困防止
はじめ子どもを中心に据
えた栗東・滋賀となる様
に駅やスーパー前で連
日活動中
(8月下旬～9月・栗東駅)『夢ある未来に向かう芸術文化・スポ
ーツ活動』が盛んな湖国づくりのために

四期目 皆さんに寄り添いこんな質問をしています

九里学の本会議質問項目 (令和元年9月～令和4年7月)
(詳しくは滋賀県議会ホームページ・録画中継をご覧ください。全てご覧いただけます)

- 令和元年9月 ①空き家対策について
②幼児教育・保育の無償化について
- 令和2年2月 ①公文書館の運営について
②びわこ文化公園都市(芸術・教養のクラスター)について
- 9月 ①コロナ後の文化行政について
ー官製談合事件をうけてー
- 11月 ①放課後児童クラブと保育ソーシャルワーカーについて
②自殺対策について
- 令和3年2月 ①地域の健康を支える公共交通のあり方検討について
6月 ①公園・駐車場への来場とコロナ後のグランピング事業について
- 9月 ①地域公共交通の維持・確保・改善について
②新型コロナウイルス感染症対策について
ー今後の検査・診療・医療提供体制の視点からー
- 11月 ①学校図書館への新聞設備の拡充について
- 令和4年2月 ①新型コロナウイルス感染症について
ー感染・後遺症を経験した視点からー
- 7月 ①滋賀県立三雲養護学校石部分教室について



チームしが 県議団

— 会派ニュース —

2022年8月/第31号

#31

発行責任者/今江 政彦
編集責任者/大橋 通伸

チームしが 県議団

〒520-8577 大津市京町4丁目1-1県庁本館2階

TEL / 077-528-4035

FAX / 077-510-6520

MAIL / info@knw.jp

7月定例会議 代表質問

滋 賀県知事選挙で3選された三日月大造知事に、1期目の挑戦から支持を続けてきた我が会派「チームしが県議団」から祝意を述べますとともに、長引く新型コロナ対策、地球温暖化による異常気象等に対応するためのCO2ネットゼロ(実質ゼロ)対策、物価高騰から県民の生活を守る取組、子ども・子育て政策の推進等により、本県の益々の発展のため、ご活躍されますことに期待を申し上げます。

今回の「チームしが県議団」の代表質問の内容は、三日月知事が3期目を目指して選挙前に出された「健康で元氣な滋賀をつくる会」の政策集に沿って組み立て、3期目に賭ける覚悟と決意を問いました。7月26日の代表質問では、今江政彦(「チームしが県議団」代表)が登壇しました。



質問動画



西井動画

動画も是非ご覧ください

Q (仮称)滋賀県立高等専門学校は、令和9年春の開校を目指されていますが、「選ばれる高専」となるためには、どのような仕掛けが必要と考えますか。

A 選ばれる高専となるためには、後発の利を最大限に活かしまして、令和の時代にふさわしい教育内容とすること、その魅力をしっかりとわかりやすく伝えることが何よりも重要と考えております。教育内容の方向性につきましては、地域と連携し、データサイエンス・AIなどを用いて社会の様々な課題を探り、解決につなげる能力を育むこととすとか、学生と企業の技術者が交流し、小中学生が技術への憧れを育む、「技術者交流・育成のハブ」にしていこうなどが必要だと考えております。今後、その特色や魅力を早い段階からお示し、他の高専との違いを打ち出していくことにより、県立高専が選ばれるよう努めてまいりたいと思います。

Q 「琵琶湖システム」が「世界農業遺産」に登録されたことで、農業・林業・水産業において、今後どのような効果が期待されるのか伺います。

A 私たちが先人から受け継いできた「琵琶湖システム」の価値が世界的に認められたことで、一つは、農林水産物の高付加価値化と生産振興、ブランド化。二つ目といたしましては、地域資源を活用した観光産業の推進。三つ目としては、企業との連携などによる地域経済の活性化。四つ目は、農業・水産業の持続可能性を高める自然環境の保全といった効果が期待できるところでございます。

Q 本県で開催した「全国植樹祭」を契機に、森林・林業・木材産業施策を今後どのように展開していくのか伺います。

A 今後、主伐・再造林を進め、林業のサイクルを取り戻すとともに、公共・民間を問わず建築物に県産木材が利用されるよう取組を進めたいと考えます。

そのためには人材育成が重要でありますことから、滋賀もりづくりアカデミーや木造建築セミナーにおいて、木を伐る人、加工する人、使う人を育てていきたいと思っております。

また、滋賀の将来を担う子どもたちがより一層、森林や木に関われるよう、森林環境学習の一環である緑の少年団活動や木育の取組、また「やまのこ」の取組等を充実させていきたいと存じます。

今後、植樹祭のレガシーとして、これらの取組により森林の適正管理、林業の成長産業化、農山村の活性化が一体となった「やまの健康2.0」を進めてまいりたいと存じます。

Q 本県の子どもの医療費の無料化の拡充検討について伺います。

A 医療費助成制度のあり方については、これまでから市町と議論を重ねており、市町で独自に拡充されている中、県内一律の制度として拡充を求めるお声をお聞きしているところです。今後は、市町の御意見も伺いながら、医療現場の状況や医療費の増加、財政状況等を勘案いたしまして、拡充に向け時期や規模を含めて検討を進めてまいりたいと存じます。



Q 原油価格、物価高騰等に対する支援策について伺う。

A 本県といたしましては、生活困窮者や子育て世帯等を対象とした「県民生活への支援」、資金繰り支援等の「事業活動の下支え」、CO2ネットゼロに資する取組等の「未来を見据えた投資の促進」、この3本の柱により、影響緩和に向けた対策を講じてまいります。

この考え方に沿って、まずは、5月補正予算としてお認めいただいた生活者、事業者それぞれを支援する事業を着実に実施いたします。加えて、事業者において価格転嫁が十分に進んでいない状況を鑑み、価格転嫁が難しい事業者への支援や県内消費の喚起に取り組んでまいります。

また、現在、国へ緊急要望いたしました肥料高騰への支援については、調達コスト上昇分への補填制度の導入に向けて調整されているところでございます。

Q 全国に先駆けた「新たな税導入」にあたっての知事の思いと具体的な方向性について伺います。

A 地域公共交通を国や事業者だけに頼らず、税という形で、みんなで負担・分担し合い、維持していこうとすることは、新たな自治を追求するためにも、大変重要なことであると認識しております。その負担・分担の方法について、新たな選択肢を私たち県民が持てるとするならば、地域の将来にとって希望の光が見いだせるのではないかと考えているところです。そのため、現在検討を進めております、「(仮称)滋賀地域交通ビジョン」を実現するための財源として、私たち県民が等しく少しずつ負担し合う、例えば「交通税」という形でつくることが出来ないか、県議会・県民の皆様と丁寧に議論を積み重ねてまいりたいと存じます。

代表質問の要旨

- ✓ 新型コロナウイルス感染症対策について
- ✓ 原油価格、物価高騰等への対応について
- ✓ 北部地域の振興について
- ✓ ひとづくりについて
- ✓ ひとの健康について
- ✓ 社会・経済の健康について
- ✓ 自然の健康について
- ✓ 「健康しが」の基盤づくりについて